

令和4年度 第1回校内研究全体会

1 研究主題

「主体的に学び、ねばり強く取り組む子」の育成 ～基礎学力の向上～

2 主題設定の理由

前年度末に、本校の児童の苦手なことについて聞いたところ、次のような点があがった。

- 地道にこつこつと取り組むこと
- 粘り強く最後まで取り組むこと
- 受け身な児童が多く、主体性に欠ける
- 自分ごととして考えること
- 基礎的な計算力
- 書く力

これらをふまえて、どのような研究をしたいか尋ねた結果、次のような声が聞かれた。

- 教科を算数にしぼる
- 課題設定の仕方
- 分かりやすい目標、ゴールを示す
- 楽しさを感じられるように
- 「のび」を実感できるように
- 学力の低い子、困難を抱えている子への手立て
- スモールステップ
- 計算の基本的なやり方
- 学年ごとの計算の到達目標
- 専科もテーマに沿った授業を行う

これらをふまえて、前年度の研究推進委員会で話し合い、研究のテーマを「主体的に学び、ねばり強く取り組む子の育成～基礎学力の向上～」とすることにした。

学校教育目標に「自ら学び、心豊かにたくましく生きる子どもの育成」とあるが、「自ら学び」という部分が「主体的に学び」につながっている。

子どもたちが主体的に取り組む、ねばり強く取り組むためには、「楽しさ」を感じられるようにすることが大切だと考える。【めざす児童の姿と取り組みの重点】にも、「知る喜び、学ぶ楽しさ」とある。算数の楽しさとは、どういうものだろうか。いろいろな考えがあると

は思うが、ひとつは、「頭の中のもやもやが晴れてスッキリとすること」ではないだろうか。頭の中がもやもやするような問題点を子どもたちが感じ、話し合いや自分たちが見つけた方法で試して解決する、そのようなときに「気持ちいい!」「楽しい!」と感じるのではないだろうか。また、どの子にも「分かった、できた」という実感をもたせるということも大切である。そのためには、個人差に対応する手立てが必要となる。

楽しいから進んで学ぶ、「問題を解決したいから友だちの話を聞きたい」、「自分の考えを聞いて欲しい」、「もう少しで解けそうだから最後までやりたい」という思いをもち、それが、「がんばってやったらできてうれしかった、次もがんばりたい」、「次もこの方法が使えるかも、試してみたい」などと次への意欲につながっていくと考える。そのために、教師はどんな準備をしなければならないのか、その具体的な手立てを日々の実践を通して探っていきたい。

3 研究の方法

(1) 部会について

「授業研究」「学習ルールの定着」「学力向上」の3つの部会に全職員が所属する。学年で3つに分かれる。級外については、推進委員でどの部会に所属するか割り当てる。

授業研究部会…職員へのアンケートを取り、授業研究で焦点化したいことなどを提案する。授業提案の仕方について検討する。

学習ルールの定着部会…豊川小学校としての共通のルールを作り、定着を図る。

学力向上部会…子どもへのアンケート、子どもたちにつけたい算数の学力について、学力が向上したかどうかの確かめ方、など

「困っていること・学びたいこと」

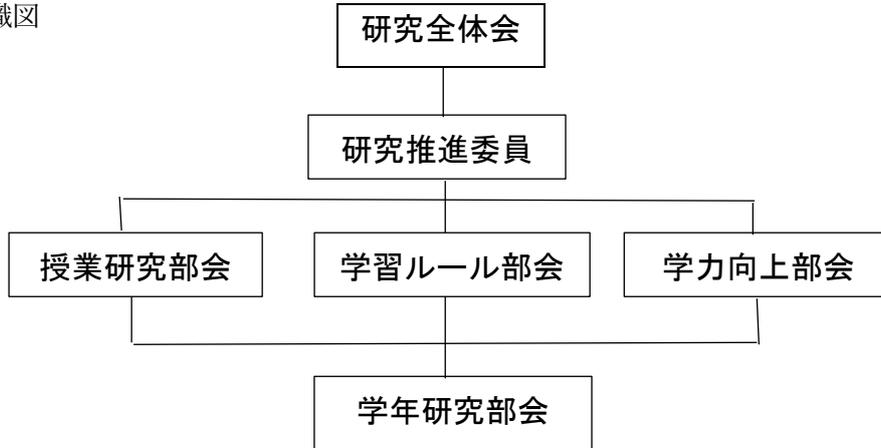
- 授業の進め方
- 数学的な見方・考え方
- 課題設定
- 発問
- ノート・板書
- 話し合い
- 発表・まとめ
- ふり返りの仕方
- 評価 など

(2) 研究授業について

- 学年研究とし、全体研究を各学年1回ずつ行う。
- 全体研の参観については、授業をする教室で参観するのは各学年1名、その他の職員はタブレットで参観する。
- 全体研はビデオで撮影し、参観できなかった職員は協議前にビデオを見る。
- 専科の授業について…それぞれの教科で、研究主題に沿った授業提案を行う。
- ふれあい級の授業について…個に応じた指導のお手本とも言えるので、できれば授業提案を行う。

4 研究の組織

(1) 組織図



(2) 組織構成

| 学年 | 構成員 | 学年 | 構成員 |
|-------|-----------|----|----------|
| ふれあい級 | ふれあい級担任 | 4年 | 4年・図工専科 |
| 1年 | 1年担任・教務主任 | 5年 | 5年・外国語専科 |
| 2年 | 2年担任・養護教諭 | 6年 | 6年・理科専科 |
| 3年 | 3年担任 | | |

| | |
|---------|------------------------|
| 授業研究部会 | 田村 小田 瀬戸 各学年から1名 理科専科 |
| 学習ルール部会 | 野村 佐々木 各学年から1名 外国語専科 |
| 学力向上部会 | 園山 小澤 一寸木 各学年から1名 図工専科 |